令和6・7年度市町村立美術館活性化事業　第24回共同巡回展
「北海道立釧路芸術館所蔵　水からはじまるアート展」（仮）
開催概要

企画について

島国である日本に暮らす私たちにとって、水はとても身近な存在です。海や川、湖として目にすることもあれば、雨や雪、雲、霧などといったかたちで接することもあります。人間はもとより、動物や植物の生命を支え、ときに脅威ともなりえるのが、水といえるでしょう。美術の世界においても、水は重要なモティーフのひとつです。ゆらぎ、流れ、辺りのものを映し出し、生命の根源となる存在として、アーティストの創作意欲をかきたて、数多くの魅力的な作品が生み出されてきました。

「水からはじまるアート」と題した本展では、「水」をテーマに、北海道立釧路芸術館のコレクションのなかから作品を選りすぐりご紹介します。「自然と芸術」「地域と芸術」「映像芸術」を収集活動の柱とする同館には、さまざまな分野の水にまつわる名品が収蔵されています。例えば日本画では、流れ落ちる滝と水煙が生み出す幽玄な世界を表した千住博の代表作《ウォーター・フォール》や、雲の一部が虹色に輝いてみえる神秘的な気象現象をとらえた岩橋英遠の《彩雲》。油彩画では、ゆらめく水面を描いたスーパーリアリズム絵画の第一人者・上田薫の《流れ S》。さらに同館が誇る写真コレクションには、写真、現代美術、建築など分野を超えて活躍を続ける杉本博司のライフワークとして知られる、世界各地の水平線を写した《SEASCAPES》シリーズや、米国人写真家ユージン・スミスの助手としても知られた森永純による、東京のドブ河の川面を独自の造形感覚でとらえた《河－累影》など、日本の現代写真を語るうえでも重要な作品が含まれています。

本展をきっかけに、多くのアーティストが惹きつけられた水の魅力に触れていただくとともに、美術の多様な表現に親しんでいただく機会となれば幸いです。

（北海道立釧路芸術館　学芸主幹　村山　史歩）

開催時期｜令和7年度（令和6年度は準備年に当たります）
事業主体｜第 24回共同巡回展実行委員会（参加決定後、令和6年度に全参加館により組織します）
助　　成｜一般財団法人 地域創造（準備年・開催年の2ヵ年にわたり助成します）

作品紹介｜北海道立釧路芸術館の所蔵作品からの出品

※日本画、写真、版画については作品保存を考慮し、巡回会場数や展示日数に応じて、
開催館側で展示替えや作品保管などのご対応をいただく場合があります。

岩橋英遠《彩雲》1979 年
149.8×210.5 ㎝

千住博《ウォーターフォール》1997 年、162.0×454.0 ㎝

上田薫《流れ S》1997 年、162.0×215.0 ㎝

羽山雅愉《黄昏・釧路（00-3）》
2000 年、130.3×194.0 ㎝

作品紹介

田中みぎわ《天国の門》
2001 年、148.0×413.0 ㎝

毛綱毅曠《建築古事記―曼荼羅 1(水)》
1991 年、180.0×180.0 ㎝

杉本博司《SEASCAPES:Kattegat,Kullaberg》
1996 年、41.5×54.3 ㎝

畠山直哉《Slow Glass #065》
2001 年、90.0×120.0 ㎝

森永純《河－累影》
1961 年、45.2×30.2 ㎝

奈良原一高《人間の土地－緑なき島》
1954-57 年、21.7×32.8 ㎝

アンセル・アダムス《白い枝》
1950 年、49.4×38.8 ㎝

マイケル・ケンナ
《Kurosawa's Tree,Study2,Memanbetsu,Hokkaido,Japan 2009 女満別》
2009 年、20.2×19.6 ㎝

岡沼淳一《遡行》
1986 年、150.0×135.0×300.0 ㎝